

光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2013年12月号>

81号 2013.12.3 配信

早いもので師走を迎えました。

学園内の木々が秋色に染まる中、昭和学園のヒマラヤスギにも明かりが灯り、師走の風景をさらにあざやかに彩っています。不思議なもので、光のオーナメントの美しさは、寒さに比例して美しく感じるように思われます。寒さに身を縮めてうつむき加減に、そして歩をはやめがちになるこのごろ、ちょっとだけ上を見上げてゆっくりと町の景色を眺めてみてはいかがでしょうか。美しい輝きに励まされつつ、癒されつつ、多忙な年末を乗り切りたいものです。

■ 学園だより

- 学園の冬季休業等は以下の通りです

大学キャンパス 12月23日(月)～1月8日(水)
12月26日(木)～1月5日(日)は学園一斉休業
同窓会事務局 12月21日(土)～1月8日(水)
大学図書館 12月26日(木)～1月6日(月)

■ 同窓会便り

- 秋桜祭 11月9日(土)・10日(日)に参加しました

- ・パネル展示 「人見圓吉先生に連なる人々」
- ・ミニトーク 『ブラック企業に気をつけよう』

多田敦子氏 (1983年国文卒 特定社会保険労務士)

その他、ワーキングのパネル展示、心の援助活動、喫茶、バザー、子どもゲームコーナーと、会員の皆様のご協力により、多くの来場者を迎えることができ、大盛況のうちに幕を閉じました。

ありがとうございました。

- みかん狩りのお知らせ

日 時 12月12日(木) 10:30 (時間厳守) 小雨決行

集合場所 昭和女子大学東明学林 神奈川県足柄上郡大井町山田字道津1868

参加費 500円 (現地で集金)

申込〆切 12月6日(金) 16:00まで (HPでは2日となっておりますが、延長します)

- キムチづくり教室のご案内

日 時 12月17日(火) 10:30～14:00

場 所 昭和女子大学 4号館1階 調理室

講 師 池田 文江氏 (1961年 初等教育学科卒)

会 費 3000円 (材料費・昼食代含む)

申込〆切 12月4日(水) 16:00まで

上記二つの申込み先 光葉同窓会事務局 E-mail : dousoukai@swu.ac.jp Fax:03-3411-4066

また、HPでもご覧いただけます。

※ 申込みには、氏名・卒業年・卒業学科を必ずお書きください。

■同窓生便り

- ・松澤晃子さん (2003年英米文学科卒)
個展「パステル画と油絵」を開催 12月2日(月)～12月8日(日)
場所：K・Sギャラリー原宿 お問い合わせ：03-3470-0810
- ・日本国際ボランティアセンター 石川朋子(1995年英米文学科卒)
メサイア：12月14日(土) 15:00開演 昭和女子大学人見記念講堂
お問い合わせ：JVCコンサート事務局 03-3836-4108
- ・五木まりさん (1969年生活美学卒)
五木まりコンサート 2013年12月16日(月) 19:00 内幸町ホール
お問い合わせ・03-5450-8205

■ 広げよう光の葉

竹澤 桂子さん 1977年 文家政学部日本文学科卒業

『税理士、どうでしょう?』

私は税理士の仕事をしている。登録してまだ年数が経っていないので、古参の先生たちからは若造扱いされているが昭和女子大学の文家政学部の日本文学科を昭和52年に卒業している。三十代の若い先生たちよりは、ちょっと年上だ。

私が在校生だった頃の昭和女子大学は、いわゆる良妻賢母養成大学などと言われたものだ。当時の昭和女子大生の人生における最大のテーマは、良き伴侶に出会うことだったと思う。就職したら、2～3年で寿退社は当然のお約束だったのだ。しかし同級生よりも、ちょっとやんちゃだった私の考えは違った。「人生における良き伴侶には、そんなに簡単に出会えるものだろうか? 出会えなかったら私の人生はどうなるのか? そもそも結婚して、人の一生はどうかなるものなのか? 自分のこの、生まれ出ずる悩みとも言うべく疑問はどうやって解決できるのか・・・?」いわゆる「自分探し」である。お茶くみとコピーとりだけのOLなんてやりたくない、と思っていた。

北海道の実家の会社で働いていたときに出会ったのが、経理の仕事だった。元々が商人の家に生まれ、文学少女に育ったのは、読書好きの母親の影響かもしれない。しかし、近所の夜間の簿記学校に通い出した私は、まるで水を得た魚のようだった。(と、思う。)いわゆる簿記の借方・貸方の世界が自分にあっていたのだ。それでも、母親に税理士試験の話をした所、「あんたにできるわけがない。それより、早く嫁に行っちゃってちょうだい。」と懇願された。

25歳の時、実家で貯めたお金を元手に、再度上京して東京の税理士試験予備校に通い出したのが、私のこの業界デビューの始まりである。夫の転勤に伴い札幌に移り住み、どうにか税理士事務所に職を見つけて働きだしたが、出産で退職し、長い専業主婦時代のブランクがあったが、こうして開業税理士となり、今は税理士法人の役員を勤めている。

税理士は仕事柄、常に勉強し続けることが要求されるが、納税者の立場に立って相談に乗りながら正しい申告と納税を推進するという、非常に公共性の高い仕事と言える。「民主主義国家を維持するのに必要な資金を、主権者である国民が自らの担税力に見合った納税額を計算し、税額を確定させる」、そのお手伝いをするなどという、民主主義社会を支えるお仕事・・・「世の光となろう」という、建学の精神にぴったりではありませんか。

しかし、昭和女子大の卒業生で税理士の仕事をしている人は少ない。税理士の仕事は自宅で開業できるし、いったん中断しても私のように社会復帰もできる。看護師さんほどの需要はないが、国家が存続する限り納税は発生するし、会計の仕事は資本主義が続く限り必要とされるだろう。最近では弁護士や公認会計士よりも、需要があるという話も聞く。そして私は、母校の後輩と数年後に税理士会でお会いできる日がくるのを、心待ちにしている毎日なのである。では後輩の皆さん、税理士会でお待ちしています。

End